

北海道における仏教寺院の分布について

Distribution of Buddhist Temples in Hokkaido

永幡 豊¹

Yutaka NAGAHATA¹

要旨

本稿は、北海道における開拓移民母集団（東北6県、北陸4県、そして東京・徳島・香川・岐阜県の開拓移民戸を1つの大移民集団とした）と系統別の寺院構成比の関係を考察したものである。北海道の開拓ピーク期は、明治19（1886）年から昭和11（1936）年までであるが、開拓を多く出したのは東北6県（289,217戸、41.4%）、北陸4県（184,064戸、26.3%）、東京都・徳島・香川・岐阜県（66,065戸、9.9%）である。東北は禅宗の卓越する地域であり、北陸は浄土真宗系の卓越する地域であることから、北海道に浄土真宗（特に大谷派）・禅宗（特に曹洞宗）系寺院が多く建立されることになったと推測できる。真宗本願寺（西本願寺）派寺院総数は、真宗大谷派より148寺少ないが、これは北海道における真宗大谷派と江戸時代における松前藩との結び付きがあったからである。禅宗は（松前家時代）曹洞宗だけが布教を許され、明治以前に開基した寺院数は40寺で、真宗大谷派より7寺多い。明治元（1868）年から20（1887）年までに41増えて真宗大谷派より2寺多いが、明治21（1888）年から30年までに66寺しか増えなかった。真宗大谷派はこの時期に127寺増えている。この原因を考えると、まず第1に明治29（1896）年までに継続した内紛のため他派よりも布教が遅れたこと、第2にこの時期の開拓者の出身地は、富山を筆頭に北陸出身者が多かった（曹洞宗の卓越する地域東北出身者の増加は、明治38（1905）年以降）ことが挙げられる。従って明治32（1899）年以後、布教は進まず、本格化するの明治40（1907）年以降で明治31（1898）年から45（1912）年までには98寺増加し（真宗大谷派151寺）、合計245寺となった（真宗大谷派の合計は355寺）。浄土真宗系卓越地域の北陸からの移民は（明治19（1886）年から大正11（1922）年まで）、全移民の26.3%を占め、曹洞宗が卓越する地域の東北からの移民者は41.4%を占めている。このことは北海道における曹洞宗寺院の優位性を生む要因となるべきものであったが、上記した理由により真宗大谷派などの浄土真宗の宗勢に及ばなかったと考えられる。

キーワード：仏教寺院、開拓、仏教文化、移民、北海道

Keywords : Buddhist temple, Hokkaido development, Buddhism culture, Hokkaido

I. 北海道における仏教寺院の分布

この報告は、開拓によって他地域の宗教文化が伝播した新興地域である北海道において、現在いかなる仏教宗派の寺院がどのように分布し、また寺院勢力（宗勢）の展開をもたらした要素が何であるかを明らかにすることを目的とする。

北海道の寺院を宗教地理学的な立場から研究している論文は稀である。宗教地理学の論文の中で、北海道における寺院にふれているものとしては、望月（1930）、寿栄松（1955）、内田（1959, 1971）などがあるものの、これらでは詳しい説明がなされていない。そこで本報告は、北海道における寺院の詳細な分布と展開について宗教地理学的な立場から説明を行う。なお、研究方法としては、北海道における寺院分布の状況を宗派別に概観し、宗勢の展開をもたらした要素を明らかにする。

北海道の仏教文化的な地域区分を設定するには、まず北海道における各仏教宗旨の信徒数を把握しなければ

ならない。しかし、井門・吉田編（1970）や内田（1971）などで述べられているように、各宗派の正確な信徒数を把握することは困難である。そこで、寺院の分布によって検討することとし、北海道の寺院分布を地図化する。なお、廃寺になったものは、今回は取り扱わず、寺院の変遷については現存する寺院のみで考察した。

II. 北海道における寺院分布の概観

平成元（1989）年3月現在の『北海道宗教法人名簿』によると、北海道の仏教法人数は2,282寺となっている。系統別にみると、浄土真宗が990寺（全寺院の43.4%）と最も多く、次に禅宗系が476寺（20.9%）、日蓮宗系が336寺（14.7%）、真言宗系が265寺（11.6%）と続く。さらに、少数の寺院として浄土宗系155寺（6.8%）、天台宗系21寺（0.9%）、その他39寺（1.7%）が存在する¹⁾。宗派別にみると、真宗大谷派が500寺（全寺院の21.9%、浄土真宗系の50.5%）²⁾、曹洞宗が444寺（禅宗の93.3%）、真宗本願寺派352寺、日蓮

¹ 岩見沢東高等学校／Iwamizawa Higashi High School, Japan

表1 支庁別系統別の宗勢

単位（上段：寺数，下段：％）

支庁名	系統別名	浄土真宗派	禅宗系	日蓮宗系	浄土宗系	真言宗系	天台宗系	その他	計
宗谷		35 37.63	28 30.11	17 18.26	9 9.68	3 3.23	0	1 1.08	93
留萌		31 34.44	22 24.44	15 16.67	10 11.11	10 11.11	0	2 2.22	90
上川		130 49.43	46 17.49	29 11.03	15 5.7	8 14.45	4 1.52	1 0.38	263
網走		89 46.84	40 21.05	25 13.16	8 4.21	25 13.16	1 0.53	2 1.05	190
根室		18 38.30	15 31.91	5 10.64	3 6.38	4 8.51	0	2 4.26	47
釧路		39 41.94	26 27.96	14 15.05	3 3.23	10 10.75	0	1 1.08	93
十勝		91 52.00	30 17.14	16 9.14	2 1.14	32 18.29	1 0.57	3 1.71	175
日高		26 42.62	12 19.67	12 19.67	3 4.92	7 11.48	1 1.64	0	61
空知		183 52.74	56 16.14	45 12.97	15 4.32	43 12.39	1 0.29	4 1.15	347
石狩		120 44.28	38 14.02	46 16.97	15 5.54	31 11.44	6 2.21	14 5.17	271
胆振		56 39.72	27 19.15	30 21.28	6 4.26	20 14.18	0	2 1.42	141
後志		87 37.99	56 24.45	33 14.41	20 8.73	29 12.66	3 1.31	1 0.44	229
檜山		27 38.03	20 28.17	6 8.45	15 21.13	3 4.23	0	0	71
渡島		58 27.62	60 28.57	42 20.00	30 14.29	10 4.76	4 1.90	6 2.86	210
計		990 43.38	476 20.86	336 14.72	155 6.79	265 11.61	21 0.92	39 1.71	2,282

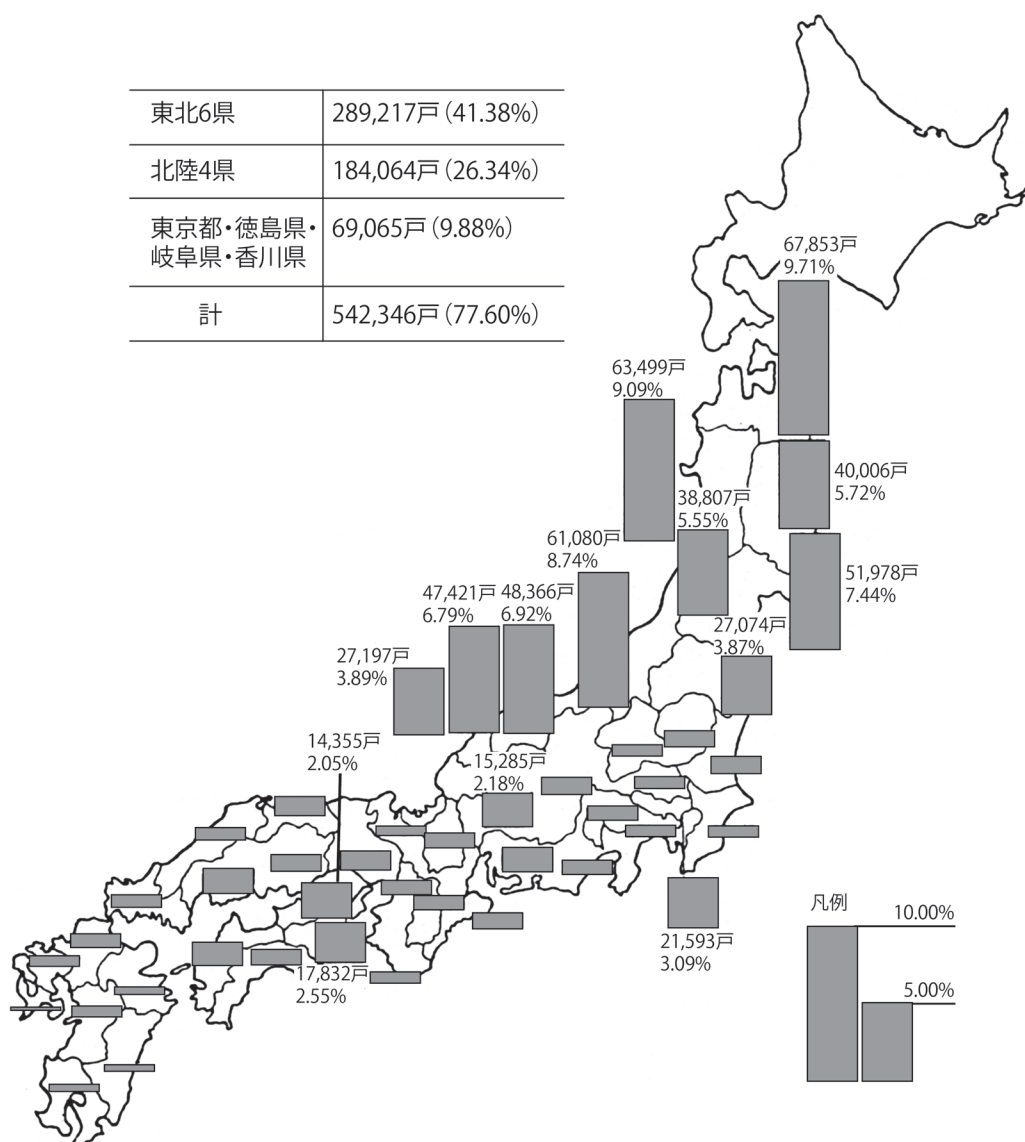


図1 北海道開拓者出身地域分布図（1886～1936年）永井（1966）、桑原（1968）により作成。

宗 213 寺（日蓮宗系の 87.7%）、浄土宗 136 寺（浄土宗系の 87.7%）、真宗興正寺派 66 寺の順となる。これら 7 宗派で全寺院の 80.9%を占めている。

次に支庁別・系統別の宗勢を捉えてみると³⁾、浄土真宗系寺院が全体として他宗を圧倒していることは明白であるが、特に空知支庁では全寺院の 52.7%（183 寺）を占め、十勝支庁（91 寺）、上川支庁（130 寺）、網走支庁（89 寺）においても寺院比率 46%以上を占めている。内陸部で卓越しているが、人口が海岸側に多い渡島支庁（58 寺、27.6%）、宗谷支庁（35 寺、37.6%）、留萌支庁（31 寺、34.4%）では、比較的寺院の勢力は弱い。禅宗系寺院は、渡島支庁において強勢で 60 寺（28.6%）を数えている。内陸部では、浄土真宗系に押されているが、根室・宗谷・留萌・檜山での比率は真宗系に迫っている。禅宗系寺院総数 476 寺のうち郡部に 307 寺建立されていることから禅宗系寺院は拡散して分布していることが判る。日蓮宗系は、胆振（30 寺）、石狩（46 寺）で禅宗系の比率より上回っている。真言宗系は、十勝で 32 寺存在し 18.3%を占め、浄土真宗系の 52%に次ぐ。最も真言宗系寺院数の高い空知支庁では、12.4%（43 寺）を占め、比率順位は 4 位である。浄土宗は、全体的に劣勢であるが、道南にやや偏在した分布現象がみられることは注目できよう。

北海道における系統別の寺院構成比（表 1）と開拓移民母集団の関係を巨視的見地から考察してみる。開拓ピーク期は、明治 19（1886）年から昭和 11（1936）年までであるが、この期間における開拓移民の出身地域は、東北 6 県（289,217 戸、41.4%）、北陸 4 県（184,064 戸、26.3%）、東京都・徳島・香川・岐阜県（66,065

戸、9.9%）が大部分である⁴⁾（図 1）。全開拓移民戸の 77.6%をこれらの都県で占めていることは注目できる。東北は禅宗の卓越地域であり、東北で建立されている寺院 2,758 寺のうち禅宗系寺院が 49.3%を占める。一方、北陸は浄土真宗系の卓越する地域であり、北陸全体で建立されている 4,414 寺のうち、浄土真宗系寺院が 55.8%を占める。これらの地域からの移民が多いことが、北海道に浄土真宗（特に真宗大谷派）・禅宗（特に曹洞宗）系寺院が多く建立される背景になったと推定できる。また日蓮宗および浄土宗系は、開拓移民母集団を形づくっている地域において北海道と同様に宗勢は弱い。真言宗寺院の卓越する徳島県（全寺院 469 寺のうちの 69.7%を占める）や香川県（全寺院 331 寺のうちの 35.7%を占める）の開拓者は、北海道における真言宗寺院の建立に影響を与えたと思われる。天台宗系は、開拓者をあまり出していない茨城・三重・滋賀・群馬・千葉県に多く、北陸・東北では、マイノリティーグループであるため北海道でも極端に少ない。

Ⅲ. 北海道における真宗大谷派寺院（東本願寺）の分布

真宗大谷派寺院は、空知支庁（89 寺、25.7%）、石狩支庁（62 寺、22.9%）、上川支庁（54 寺、20.8%）、網走支庁（44 寺、23.2%）に多く建立されているが、宗谷支庁、根室支庁、釧路支庁、後志支庁、渡島支庁の各支庁では、曹洞宗より劣勢である（表 2）。次に、大谷派寺院分布図（平成元（1989）年 3 月現在）をもとにして、具体的な分布をみる（図 2）。真宗大谷派寺院は、札幌市（39 寺）、旭川市（16 寺）、小樽市（11 寺）に集中しているが、全体的にみると石狩平野をは

表 2 支庁別宗派別の宗勢													単位（上段：寺数，下段：％）	
支庁名	真宗 大谷派	曹洞宗	真宗 本願寺派	日蓮宗	浄土宗	高野山 真言宗	真宗 興正寺派	真言宗 智山	真言宗 醍醐	法華 真門	法華 本門	その他	計	
宗 谷	20 21.51	28 30.11	14 15.05	10 10.75	9 9.68	2 2.15	0	1 1.08	0	5 5.38	0	4 4.30	93	
留 萌	22 24.44	22 24.44	9 10.00	11 12.22	10 11.11	3 3.33	0	2 2.22	3 3.33	0	0	8 8.89	90	
上 川	54 20.53	38 14.45	51 19.39	19 7.22	10 3.80	21 7.98	13 4.94	7 2.66	2 0.76	2 0.76	2 0.76	44 16.73	263	
網 走	44 23.16	40 21.05	31 16.32	18 9.47	6 3.16	18 9.47	10 5.26	6 3.16	1 0.53	1 0.53	4 2.11	11 5.79	190	
根 室	10 21.28	14 29.79	8 17.02	4 8.51	3 6.38	2 4.26	0 0.00	2 4.26	0	0	0	4 8.51	47	
釧 路	19 20.43	20 21.51	19 20.43	7 7.53	3 3.23	8 8.60	1 1.08	1 1.08	0	0	2 2.15	13 13.98	93	
十 勝	42 24.00	28 16.00	40 22.86	11 6.29	2 1.14	11 6.29	3 1.71	3 1.71	13 7.43	2 1.14	1 0.57	19 10.86	175	
日 高	15 24.59	12 19.67	9 14.75	7 11.48	3 4.92	3 4.92	0 0.00	1 1.64	2 3.28	0	4 6.56	5 8.20	61	
空 知	89 25.65	53 15.27	62 17.87	24 6.92	6 1.73	24 6.92	17 4.90	5 1.44	5 1.44	10 2.88	5 1.44	47 13.54	347	
石 狩	62 22.88	35 12.92	40 14.76	29 10.70	13 4.80	10 3.69	8 2.95	10 3.69	8 2.95	8 2.95	1 0.37	47 17.34	271	
胆 振	28 19.86	23 16.31	21 14.89	19 13.48	6 4.26	10 7.09	4 2.84	5 3.55	1 0.71	1 0.71	5 3.55	18 12.77	141	
後 志	42 18.34	53 23.14	24 10.48	23 10.04	19 8.30	17 7.42	8 3.49	5 2.18	2 0.87	3 1.31	2 0.87	31 13.54	229	
檜 山	21 29.58	20 28.17	6 8.45	6 8.45	15 21.13	2 2.82	0	0	0	0	0	1 1.41	71	
渡 島	32 15.24	58 27.62	18 8.57	25 11.90	30 14.29	5 2.38	2 0.95	2 0.95	2 0.95	3 1.43	2 0.95	31 14.76	210	
計	500 21.92	444 19.47	352 15.43	213 9.34	135 5.92	136 5.96	66 2.89	50 2.19	39 1.71	35 1.53	28 1.23	283 12.41	2281	

平成元年 3 月現在
北海道宗教法人名簿による北海道総務部学事課

多く出した都府県ほど相対的にみて真宗大谷派寺院数が多く、逆に開拓者をあまり出していない府県のその数は一般的に低くなっている。真宗大谷派寺院分布とその変遷に与えた第一の要素は、上記したように開拓移民母集団の出身地の多くが大谷派卓越地域であることをあげておきたい。また教勢拡張の実道的展開は、富山県を筆頭に北陸出身者が多く移住した明治末期から昭和初期にみられ、北海道仏教会を組織化させ、地域の人間との関係を強化させていった。

IV. 北海道における真宗本願寺派寺院（西本願寺）の分布

北海道における真宗本願寺派寺院総数は、真宗大谷派より148寺少ないが、上川、釧路、十勝、空知の各支庁では、比較的真宗本願寺派の率が高い。本願寺教団は、第11世顕如の没後、相続問題により2派に分かれたが、宗制が対立するのみで真宗教義の骨格（絶対他力により阿弥陀仏の本願力で浄土に入り、仏になるということ）には相反しない（戸頃，1967）。

後志支庁（24寺，10.5%）、檜山支庁（6寺，8.5%）、渡島支庁（18寺，8.6%）における本願寺派寺院数は他宗と比べかなり少ないが、その理由は前記した通りである（図3）。石狩支庁では、40寺建立されているが、札幌市がそのうちの27寺を占め、また旭川市（14寺）・函館市（10寺）にも集中している。岩見沢市は、大谷派3寺に対して本願寺派を6寺有し、芦別市は、曹洞宗と同数の7寺を有する。上川支庁、十勝支庁、根室支庁、釧路支庁の真宗本願寺派寺院数118寺と真宗大谷派寺院数（125寺）の差は7寺のみだが、十勝支庁における両派の分布には相違性がみられる。

安政4（1857）年、北海道に真宗本願寺派の布教、開墾が僧法恵により始まり、上磯郡に丹馬・越中・加賀・能登の信徒に従事させたため（須藤，1966）、現在宗勢の弱い道南地方にあって局部的に函館市から上

磯町では卓越している。江戸時代、真宗本願寺派は、松前藩から排斥されたため明治元（1868）年には函館と小樽と江差に3寺建立されただけであった。明治2（1869）年から15（1882）年までの開拓使時代には3寺が建立され、明治15（1882）年から19（1886）年までの3県1局時代には1寺が建立されたにすぎない。真宗本願寺派は、札幌に布教策の核を置いたが、明治20年代初頭に制度化され、明治中期に入りやっと飛躍的教化があった¹¹⁾。大正5（1916）年までに寺院130説教場122と成長した。平成元年現在、寺院数は355で全国の3.3%を北海道で占めているにすぎない。

V. 北海道における曹洞宗寺院の分布

曹洞宗寺院の地理的分布と変遷を考察したい。現在の分布状態を支庁単位でみると、宗谷支庁、留萌支庁、根室支庁、釧路支庁、渡島支庁において、全寺院中の曹洞宗寺院の占める割合が最も高くなっている。道南では、曹洞宗寺院が154寺建立されており、真宗大谷派（123寺）や真宗本願寺（69寺）の寺院数を大きく上回っている。特に、渡島における曹洞宗の宗勢は強く、全寺院の4分の1以上を占める（58寺）。逆にその率が低い支庁は、内陸の上川・十勝・空知・石狩である。この4支庁には、北陸からの47の団体が入植してきているために曹洞宗寺院の率が低くなっていると思われる。図4をみると、函館を中心とした函館平野と亀田半島沿岸では、真宗大谷派と比べて寺院分布は濃密になっているのがわかる。後志の小樽市を始め積丹半島や寿都湾岸に多く、真宗系の本拠地、石狩平野を中心とする水田地帯でも良く宗勢を伸ばしている。真宗大谷派の勢力が弱い道東（29寺）の根釧台地でも34寺建立されている。他宗派に比べて北海道により均等に分布しているのが最大の特徴といえよう。

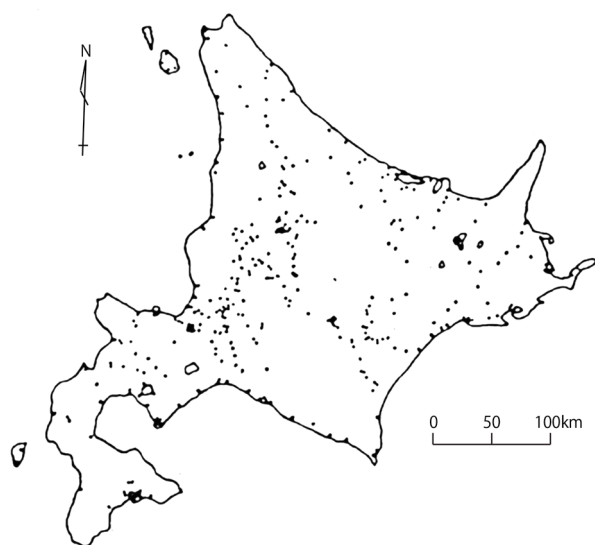


図3 北海道における真宗本願寺派寺院の分布（1989年現在）
正信会創立15周年記念寺院名簿により作成。

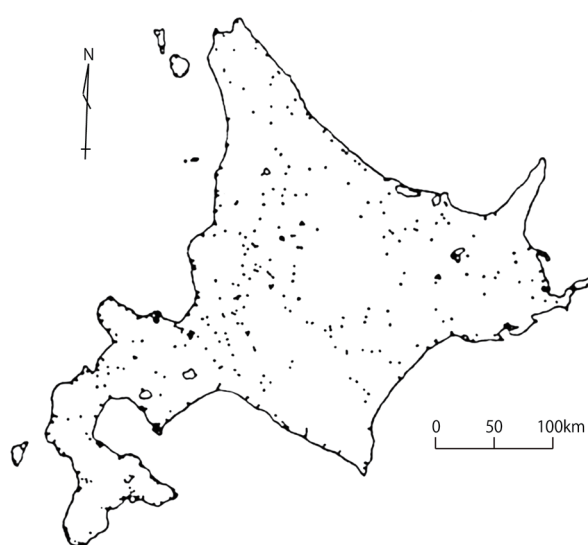


図4 北海道における曹洞宗寺院の分布（1989年現在）
正信会創立15周年記念寺院名簿により作成。

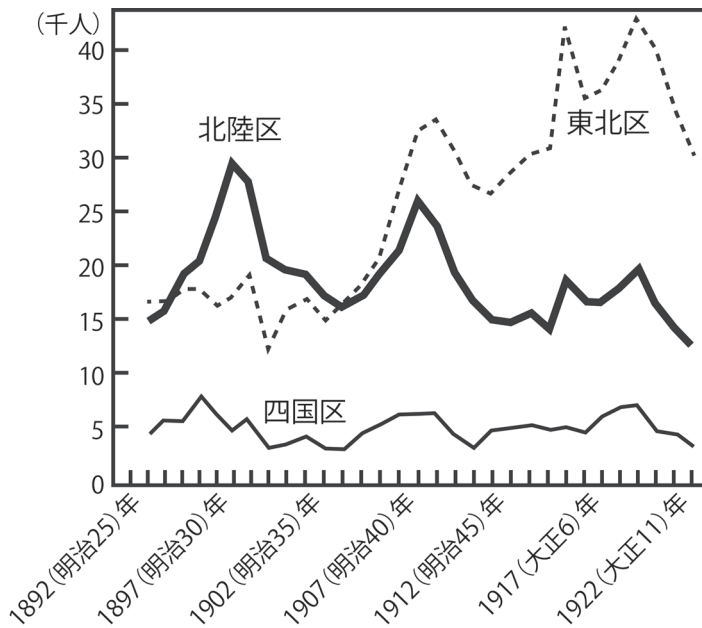


図5 出身地区別北海道移住者数の推移 桑原（1968）、北海道開拓記念館（1976）を参考に作成。

曹洞宗の特質は、只管打坐を生活の基盤として、安心立命の生活を送れるように努力することであり、太祖宝山以後、呪術等の密教的要素を加味し大衆宗教となった（秋月，1970）。北海道開教は、僧隋芳が1469年、奥尻島に1寺建立したことに始まる。松前藩時代には、禅宗では曹洞宗だけが布教を許され、真宗大谷派が松前藩12代の資広と特約を結ぶまで、松前家と最も関係深い宗教であった。明治以前に開基した寺院数は40寺で、真宗大谷派より7寺多い。明治元(1868)年から20(1887)年までに41寺増え真宗大谷派より2寺多いが、明治21(1888)年から30(1897)年までに66寺しか増えなかった。真宗大谷派はこの期間に127寺増えている。

この時期に曹洞宗が勢力をのばせなかった原因は何であろうか。まず第1に明治29(1896)年まで継続した内紛のため他派よりも布教が遅れたこと、第2にこの時期の開拓者の出身地は、富山を筆頭に北陸出身者が多かった（東北出身者の増加は、明治38年以降）ことがあげられる（図5）。従って明治32(1899)年以後、海岸部の農漁村への布教は行われず、本格化するのには明治40(1907)年以降になったと思われ、明治31年(1898年)から45(1912)年までには、98寺増加し(真宗大谷派は151寺)合計245寺となった(真宗大谷派の合計は355寺)。この他に忘れてはいけないのが月形に存在する北漸寺であり、ここは空知地方の曹洞宗寺院進出に多大な影響を与えた。福井県の永平寺を本寺とし、末寺を11持つ格式ある寺院である。また、樺戸監獄集治監の囚人により造られた寺院としても有名である（鶴原編，1984）。真宗大谷派が伸び悩んだ大正時代に曹洞宗寺院98寺が全道に建立され、確固たる宗教的な位置を占めるようになった。

VI. その他の仏教宗派寺院の分布

北海道における日蓮宗は、室町後期に本満寺の日尋が、現在松前にある法華寺を開いたことに始まる。江戸時代、日蓮宗は松前家から帰依を受けることが無く、大きく発展することが出来なかった。明治以前に12寺が創建され、大正5(1916)年まで寺院60、説教所65と伸びたにすぎない。開拓移民母集団での日蓮宗勢は弱く、日本における日蓮宗寺院全体の22.5%を占めるだけである。

北海道において室町中期に出現した高野山真言宗は、中世、松前家(4代まで)が武運隆のため祈祷宗教を求めたことから、宗教基盤を固めた。しかし、曹洞宗の出現により傍流となった。北海道における真言宗寺院のうち、明治以前に起源を持つのは9寺である。開拓移民母集団を形成する地域での高野山真言宗寺院は、全体の17.7%しか占めていない。だが徳島県の高野山真言宗は、県全寺院の4割を占めることから北海道の高野山真言宗の宗勢に強い影響を与えたと思われる。明治31(1899)年から45(1912)年までに26寺建立され、大正時代、僧侶の定着が札幌から旭川にかけての地域で顕著となった。この期に30寺が創建されている。高野山真言宗は、昭和9(1934)年から道東・道北への布教が強化され、昭和期に42寺の建立をみるに至った。

北海道における浄土宗の布教は、天文2(1533)年、了縁が、松前郡福山に1寺(光善寺)建立したことに始まる。松前家との結び付きは常に弱く干渉も受けなかった。浄土宗は、阿弥陀仏の本願を信じ、仏の名号を唱え、極楽浄土に往生することに目的がある（川崎・笠原編，1964）。江戸時代に浄土宗は、道南地方沿岸部の魚業と結び付き他宗を抑えて寺院数1位となった。しかし明治20年代、補助金を伴った布教がなされたが、他宗派に押され思うように進展できず現在に

至っている。また、浄土宗は宗勢の強い地域からの移民が少なかったことも進展出来なかった理由である。開拓移民母集団を形成する地域での浄土宗寺院は、全体の21.7%しか占めていない。

日蓮宗寺院は、札幌・函館・室蘭市に集中し、苫小牧では4寺建立されている。留萌支庁では本願寺派より上回り、比較的海岸側に建立されている。高率を示す胆振・渡島・日高でもその傾向が強い。高野山真言宗は、空知に卓越し、上川・釧路支庁では、日蓮宗より宗勢は強く、旭川・釧路・小樽市における分布の集が見られる。浄土宗は、後志・渡島・檜山・宗谷・留萌の海岸側に建立されているのが特色（以上の支庁で83寺を占める）である。

VII. 北海道における仏教寺院の分布

本報告で明らかになったのは以下の事である。北海道における寺院は、浄土真宗系が全体の43.4%を占め、次に禅宗系が20.9%を占める。真宗大谷派は全体的にみると豊穰地域に分布し、海岸平野に人口が集中している地域では曹洞宗より寺院数は劣勢である。道南には曹洞宗154寺、真宗大谷派123寺が建立されているが、本願寺派は58寺のみである。これは、本願寺派が江戸時代に松前藩から排斥されたためにおこった分布現象である。浄土真宗系卓越地域の北陸からの移民者は（明治19（1886）年から大正11（1922）年まで）、全移民の26.3%を占め、曹洞宗卓越地域の東北からの移民者は41.4%を占めている。このことは曹洞宗寺院の優位性を生む要因となるべきものであるが、明治29（1896）年まで続いた曹洞宗の宗争と東北出身開拓者の出遅れにより真宗の宗勢に及ばなかったと考えられる。

なお今後は、寺院と地域生活の関係を細部にわたり調査して、各宗派の宗勢を齎した要素が何であったのかを深く探って行くことを課題としたい。

謝辞

本稿作成に際して、日頃叱責、励まし、御教示くださった大阪教育大学名誉教授武藤 直先生に対し深く感謝致します。資料を閲覧させて頂いた北海道開拓記念館、道立図書館、道総務部学事課、札幌市立図書館、旭川市立図書館、調査の資料を快く貸して頂いた月形の北瀬寺住職鶴原憲秀氏に御礼申し上げます。

注

- 1) 日本（平成元（1989）年現在）の仏教は、全国寺院名鑑をもとに算出すると、真宗系（22,448寺、29.2%）、禅宗系（21,418寺、27.8%）、日蓮宗系（6,734寺、8.7%）、真言宗系（12,536寺、16.3%）、天台宗系（4,248寺、5.5%）、その他（1,308寺、1.7%）である。
- 2) 真宗本願寺派が35.6%を占めるため、東西本願寺で浄土真宗系の86.1%を占める。
- 3) 現在は総合振興局となっているが、論文の用いる資料の年代に併せて支庁とする。寺院分布・宗勢の展開・各宗派の

占める割合を支庁単位で説明することには多くの問題点があるものの、藤岡編（1974）を参考にして便宜上この方法を使用した。また、ここで系統別という言葉を使用しているが、これは仏教各派別を意味し、具体的には、浄土真宗系、禅宗系、浄土宗系、真言宗系、日蓮宗系、天台宗系等をさし、そのなかには多くの宗派がある。

- 4) 『北海道拓殖誌』、『北海道移民政策史』、『移住者成績調査第1篇』の統計による。なお大正11（1922）年で開拓ピーク期終了、昭和10（1935）年以後冷害凶作が続く満州への移民が開始されるに及んで北海道開拓移民の歴史は終了する。なお、開拓移民の歴史の資料解釈では、永井（1966）、桑原（1968）、北海道開拓記念館（1976）を参考にした。
- 5) 浄土宗の教団の成り立ちについては、大野（1961）、川崎・笠原編（1964）、武内・梅原編（1969）、田村（1969）、赤松（1985）、松野（2000）に詳しい。
- 6) 藤木編（1964）、須藤（1966）、真宗大谷派北海道教務所編（1975）などによる。
- 7) 明治3年に現如上人により創立された現在の真宗大谷派札幌別院が、これに当たる。
- 8) 札幌市の1920年における人口は約10万人であった。それが1950年に30万人、1955年に40万人、1960年に50万人に達し、さらに周囲町村の合併を進めて1970年には100万人を突破した。寺院の増加は、この人口増加に対応したものと考えられる。
- 9) 小野（1967a）による。
- 10) 藤木編（1964）によると、専念寺は本山より木仏本尊・寺号許可状を受けようとしたが、秋田の有力寺院浄願寺により押さえられたため、専念寺は松前家に願い出て松前家が本尊を本山よりもらい専念寺に渡して事なきを得たとされる。
- 11) 小野（1967b）による。

文献

- 赤松俊秀（1985）：『親鸞』吉川弘文館。
秋月龍民（1970）：『道元入門』講談社。
井門富二夫・吉田光邦編（1970）：『日本人の宗教』淡交社。
内田秀雄（1959）：真宗の発展—仏教地理学的研究—。人文地理、10、330-344。
内田秀雄（1971）：『日本の宗教的風土と国土観』大明堂。
大野達之助（1961）：『日本の仏教』至文堂。
小野規矩夫（1967a）：北海道における仏教教団の布教策（上）。新しい道史、5(4)、17-25。
小野規矩夫（1967b）：北海道における仏教教団の布教策（下）。新しい道史、5(5)、20-29。
川崎庸之・笠原一男編（1964）：『宗教史』山川出版社。
桑原真人（1968）：明治・大正期の北海道移住。新しい道史35、1-4。
真宗大谷派北海道教務所編（1975）：『東本願寺北海道開教百年史』真宗大谷派北海道教務所。
寿栄松慶子（1955）：日本の仏教論。昭和30年度大阪教育大学地理学卒業論文。
須藤 隆（1966）：『日本仏教の北限』教学研究会。
関 秀志（1971）：北海道移住開拓図の試作について。新しい

道史, 48, 1-20.

武内義範・梅原 猛編 (1969):『日本の仏典』中央公論新社.

田村芳朗 (1969):『日本の仏教史入門』角川書店.

鶴原憲鳳編 (1984):『開創百周年記念誌』樺戸山北漸寺.

戸頃重基 (1967):『鎌倉仏教一親鸞と道元と日蓮』中央公論新社.

永井秀夫 (1966):北海道移住と府県の状況. 新しい道史, 19, 1-8.

藤岡謙二郎編 (1974):『最新地理学辞典』大明堂.

藤木義雄編 (1964):『北海道宗教大鑑広報:開道百年記念』広報.

北海道開拓記念館 (1976):『北海道の誕生と開拓政策の移り変わり』北海道開拓記念館.

松野純孝 (2000):『日本仏教の成立と鎌倉時代』雄山閣.

望月勝海 (1930):地理学的に見たる日本の宗教. 地理学評論, 6, 64-74.

(2013 年 4 月 18 日受理)